

中学校 E S D 道徳学習指導案

奈良教育大学附属中学校 主幹教諭 有馬一彦

1、単元名「ダイバーシティ & インクルージョンから考える平等 (Equity) と公正 (Equity)。」

【公正・公平、SDGs】

2、単元の目標

- 様々な差別や人権問題の構造や現状について学び、その解決に向けた行動を考える。
(思考力・判断力・表現力等)
- 人権の平等と公正について学ぶことで、
(思考力・判断力・表現力等)
- 文化財の社会的な価値や保存の技術・方法を現場で働く専門職の方から学ぶ。(知識及び技能)
- 文化財が現在に与えた影響や未来に与える影響について考え、自分や社会がどのように活動すべきかを探究する姿勢をみにつける。(主体的に学習に取り組む態度)

3、単元について

(1) 教材観

本単元では、身近な格差から、平等と公正について考えながら、SDGsの掲げるだれ一人取り残さないという原則目標について考える取組である。MDGsでは、南北格差や貧困・飢餓などの切実な課題に対応するために、少数者や一人一人のことまでは見ることができていなかった反省があった。SDGsでは、より細かく一人一人を見ることを原則に掲げている。そのため、身近な所にある格差や差別などにも目を向ける必要性が高まっている。目指す公正な社会は理解できても、実際の社会はその反対の方向へ進み、貧富の格差が広がっている現状がある。

(2) 生徒観

本校の生徒は、比較的真面目で道徳的な意識は高いと思われる。周りの雰囲気や流れを大きく崩すような言動は少ない。それは一方、周りに合わせたり対面を気にしている生徒が少なくないという面も持ち合わせている。自分がどう行動すれば、周りに合わせられるかに行った同調圧力が強いのも現代の特徴とも言えるだろう。自分の判断と周りの判断が異なる状況で、自分の意見が言えるか否かは、本校の生徒に関わらず難しい課題であると言える。

(3) 指導観

格差や差別が身近にあることを感覚的につかませたい。これまで当たり前だと思って見過ごしている日常の中にも、様々な課題があることを見つける視座を身につけてもらいたい。そのようなことに出会ったとき、見て見ぬ振りをするのではなく、なんらかの行動が取れるような積極性や、既存の価値感を変えるような創造性を養えたらと考える。

(4) E S D との関連

- ・ 本学習で働かせる E S D の視点 (見方・考え方)
 - ・ 相互性・・・周りの価値感と自分価値感、違った価値観の存在に気づき、どのように自己を構築していくかを考える。
 - ・ 公平性・・・有利な側に自分がいるとき、不利な側にいる人間の立場で考えることができるだろうか。
 - ・ 責任性・・・自分の行動が、少なからず周りに影響を与えていることに気づき、一つ一つの行動について責任感を持たせたい。
- ・ 本学習を通して育てたい E S D の資質・能力
 - ・ 批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)
その時代で当たり前とされていた価値感が、時代と共に変化していることに気づき、現在の自分の価値感が本当に正しいのかについて考える。
 - ・ 多面的・総合的に考える力 (システム・シンキング)
同じ現象でも、違う立場から見ることによって物事の見え方や感じ方は変わってくる。多面的な観察力が需要である。
 - ・ コミュニケーションを行う力

他者と関わることで、違った価値感に触れることができる。自分とは違った見方・考え方を
持つ人に対しても、広く関わることで自己を広げることができる。

- ・ つながりを尊重する態度
相手の考えや価値感を共有することで、自分を高めることができ、より深く物事に携わること
ができる。
- ・ 本学習で変容を促す E S D の価値観
- ・ 世代間の公正
今を生活している人間の豊かさや便利さだけを考えるのではなく、次の世代の人々も同じよう
に豊かさが享受できるように努めることが大切である。
- ・ 達成が期待される S D G s
 - ・ 1 6 平和と公正をすべての人に
 - ・ 1 0 人や国の不平等をなくそう
 - ・ 3 すべての人に健康と福祉を
 - ・ 1 貧困をなくそう
 - ・ 4 質の高い教育をみんなに
 - ・ 5 ジェンダー平等を実現しよう

4、単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①現代には様々な格差や不平等が存在することに気づく。 ②周りの判断と自己の判断が異なる場合の対処方法や思考方法について深く考察することができるようになる。	①人権に対する確かな価値感や社会・文化の壁を越えた価値感とは何かを考えることができる。 ②すべての人の立場を大切に、それを守る態度と方法について考え表現することができる。	①自分のこれまでの経験を振り返ったり、今後の未来を創造したときに、自分がどう判断しどう行動するのかについて、想像し深く考える。

5、その他

- ・ 平等 (Equity) とは、すべての人に対して同じ条件を与えること
- ・ 公正 (Equity) とは、個人の違いを視野に入れて、適切な物を与えること。
- ・ ダイバーシティとは、「多様性」の意味、人種・性別・宗教・価値観などさまざまな人々が、組織や集団において共存している状態
- ・ インクルージョンとは、「包括」「包含」を意味する。全体をまとめること、中に入れること。個性や能力、考え方を認め合いながら活躍できている状態

6、学習指導案

学習活動	学習への支援	評価・備考
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; display: inline-block;"> 発問①「奈良教育大学がダイバーシティ&インクルージョン宣言をしていることを知っていますか？」 </div>		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 当然知っている </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダイバーシティについて学ぶ。 ・ インクルージョンについて学ぶ。 ・ 奈良教育大学ダイバーシティ・インクルー 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 150px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 知っているが、内容まではわからない。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダイバーシティの良さはどこにあるのかについて、説明する。 ・ インクルージョンについて説明する。 ・ わかりにくいところは解説を入れる。 	(ア)

ジョン宣言を読む。

発問②自分と違った価値観を持った人に対して、「変わってる」「変だ」という反応や声を聞いたことがありますか？

聞いたことがある

よく聞く言葉だ。

・私たちの社会に同一性を求める傾向があり、自分とは違う性質に対して、違和感や嫌悪感を感じる傾向があることに気付く。

・身近な事例を提示し、より多様性を認め合える社会にしていくことを学ばせる。
・多様性・包括性を持つ集団の方が、危機を乗り越えやすかったり、力を発揮できることに気付かせる。

(イ)

ダイバーシティ&インクルージョンを学ぶ動画を見る。



「D&IからDE&Iへと進化している。EとはEquity（公平性）である」「平等」と「公正」について考えてみよう。

発問③「5人家族でケーキを分けるとします。みなさんならどう分けますか？」

話し合っで決める

5等分

・きれいに5等分することは、「平等」であると言える。

・平等に分けることが、必ずしも実際に良い状態とは言えない。

5人家族でホールケーキを分けます。どう分けますか？



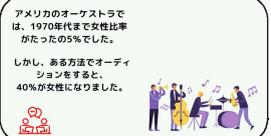
発問④「1970年代アメリカのオーケストラの女性比率は5%。ある方法でオーディションをしたところ、女性の比率は40%になった。ある方法とは？」

女性の採用率を決める

テープ審査にする

・答えは「幕の後ろで演奏する」

・オーディションを受ける機会は「平等」でも、審査する側に「公正さ」が欠けていたことに気付く。



発問⑤「このイラストを見て、あなたはどのように思いますか？」

・不公平な状態であることに気付く。

不公平だ！人権侵害だ！

野球の試合を観戦する3人



発問⑥「このイラストではどうでしょうか？」

同じ高さだけど、右の子は見れていない。

これって平等？なのかな

・平等な支援ではあるが、根本的な問題は解決されていないことに気付く。

・平等と聞くと、とても良い状態と思ってしまうが、時には暴力的な面を見せることもあることに気付かせる。

野球の試合を観戦する3人



発問⑦「このイラストではどうでしょうか？」

みんなが見れている。

野球の試合を観戦する3人



・一人一人の権利は守られている状態になっており、好ましい支援がされていることに気付く。

・すべての人に必要な支援が与えられ、一人一人の権利が守られている状態であることを理解させる。

発問⑧「このイラストではどうでしょうか？」

この状態がベスト！

なんでこうできないのだろう



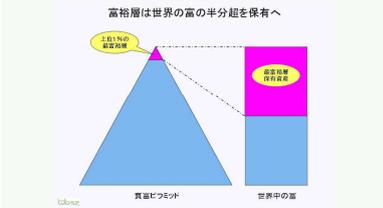
・そもそも支援など必要の無い環境を作ることができたら、一番良いことに気付く。

・一人一人の権利が守られる環境が整っていることが理想である。

発問⑨「では実際の社会はどうなっているのか？」図Aのようにないか？



・1%の富裕層が50%の富を独占しているデータがあることを知る。
 ・貧富の差は、年々大きくなっていくことに気がつく。
 ・「現実」「平等」「公平」「公正」についてイラストで知る。



・富のある人は必要以上に、ない人は必要以下に。
 ・実際の社会では、経済的な格差が大きくなる現状を説明する。

SDGSの原則として、だれ一人取り残さないという言葉がありますが、その意味が理解できますか？

[SDGs] SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 持続可能な開発目標

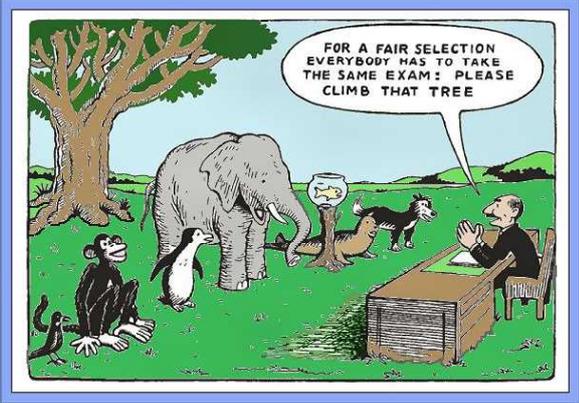
【SDGs】のキャッチフレーズ

「誰ひとり取り残さない」
 (leave no one behind)

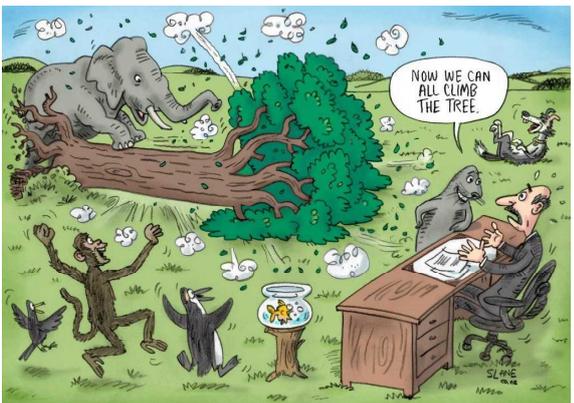
16 平和と公正をすべての人に

・SDGsの16に「公正」が含まれている。
 ・詳しく学んでみよう。

貧困などの経済格差、教育の機会均等、男女差別、LGBTQなどさまざまな格差が存在している。それらの課題に対して、目を背けずに向き合わなければならない。ダイバーシティ&インクルージョンを大切に、「公正」な社会を実現するには、公正を脅かす存在に対して向き合う力が必要である。



「公正な選抜テストを行います。」

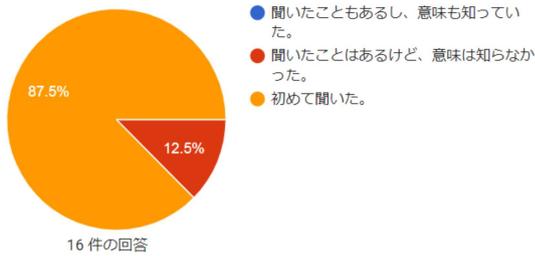


「さあ木登りテストを行います。」

《授業の結果アンケート》 ※インフルエンザによる学級閉鎖により、登校時は1クラスのみ実施

ダイバーシティやインクルージョン
という言葉を知っていましたか

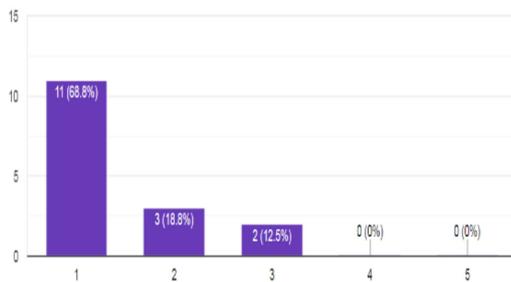
○中学生は、ダイバーシティ&インクルージョンという言葉自体、初めて聞いた生徒が多かった。



この授業で公正と平等についてわかりましたか>

○公正・平等については、理解できた生徒が多かった。

16件の回答



《公正な世の中を作るために、あなたにできることは何だと思いますか？》

- ・自分たちの周りから差別などをなくしていく
- ・紛争やテロなどで公正な生活ができていない人々に募金をする。身近な人にも「公正」について知ってもらう。
- ・取り敢えず自分が周りの雰囲気にならなく誰に対しても公正に接すること・相手との違いを知り、認めることを広める。
- ・自分の奥底にある意識から変えていき、それを周りにも伝えていく。
- ・まずは小さな募金ができると思います。1日100円の募金などもあります。飢餓の人を救ったりできると思います。
- ・公正の大事さを周りに広めていかないといけない。・自分では何もできないから募金をすることができることだと思う
- ・自分たちからしたら何も思わないものも他の人からしたら邪魔だなど思ったりすることもあるから、できるだけ多くの意見を集めて一番の最適解を見つけ出すことが大事だと思います。
- ・自分一人では何もできないけどグループを作り、一緒に活動し訴えることで公正な世の中を作ることができると思う
- ・発言と行動に気をつける。
- ・自分にできることは意外とないと思う。私は、公正な世の中を作るのは発言力のある人しかできないと思っていて、実際今起きているのも、そういう上にいる人達が偏見を持っているからだだと思います。だから、難しいと思います。
- ・公平や公正という言葉から世界で起きていることを学び、身近な人へ情報を発信していくこと。
- ・障害をなくすために、今ある社会の中の問題にしっかりと向き合っ、その障害について理解することがまずできると思います。そして、その障害を無くす方法を考え、実行することができると思います。
- ・自分の中にある偏見や、思い込みをなくす。少なくする。・友達が困っていたら助けてみる。

《あなたの知っていることで、公正ではないと感じることを書いてください。》

- ・生まれたときから勉強とかする権利がなくて出世とかすることができないこと・福祉や義務教育、法律など
- ・あなたは〇〇だから〇〇しないといけないといった自分ではない誰かからの発言。
- ・人への教育活動などがあると思います。・周りの環境が原因で学ぶことができない。
- ・通知表の点数　・平等ではあるが能力がちがくても宿題の量が同じ。
- ・自転車通学しないと遠いところに住んでいても自転車がなく自転車通学ができないことです
- ・生まれ育つ環境　・遊園地などの身長や年齢制限、柔軟剤のコマーシャル
- ・(授業で学んだことだけ) 世界のお金の半分以上が一部の富裕層に固まっており、支援が必要な人からお金を奪うような状況になっていること。
- ・年齢によって偏見をもたれること。　・紛争や戦争がなくなる

《「特別の教科道徳」から『ESD道徳』へ》

《道徳の目標》

- (1) 道徳的諸価値について理解する
- (2) 自己を見つめる
- (3) 物事を（広い視野から）**多面的・多角的**に考える
- (4) 自己（人間として）の生き方についての考えを深める

《指導要領より抜粋》

「教材の開発に当たっては、日常から多様なメディアや書籍、身近な出来事に関心をもつとともに、柔軟な発想をもち、教材を広く求める姿勢が大切である。具体的には**生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化**、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の**現代的な課題**などを題材として、生徒が問題意識をもって**多面的・多角的**に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発が求められる。」

ESD的な課題や価値感を学ぶことができるのでは。

《ESDの視点に立った学習指導

で重視する能力・態度》

- ・批判的に考える力
- ・未来像を予測して計画を立てる力
- ・**多面的**・総合的に考える力
- ・コミュニケーションを行う力
 - ・他者と協力する力
 - ・つながりを尊重する態度
 - ・進んで参加する態度

《本校のESDホールスクール・アプローチから道徳を考える = ESD道徳》

- ・自分の生活圏に収まる範囲の道徳性だけでなく、地球的規模・地球市民としての広い視野での道徳性まで広げることができる。
- ・道徳性が自世代のみに収まるのではなく、未来世代にも同様の権利を守ることができる世代間の公平の価値感を大切にす。
- ・これまでの伝統的な価値感を鵜呑みにするのではなく、批判的な思考で持続可能な社会を構築できる新たな価値感を産み出すことも視野に入れておく。
- ・道徳的な行動指標がESD/SDGsと深く関連していることを意識し、ウェルビーイングの視点を持った教育活動につなげる。

「ESDの理念を貫きながら、地球市民として持続可能な世界を構築できる道徳性を育てる。」

《ESD道徳の実践のまとめ》

○2019年度

- ・2019年「特別の教科道徳」が実施される。

○2020年度

- ・2020年道徳公開研修会「ESDの理念を含んだ道徳の授業」
公開授業「モースが見た日本の良さ」若森実践
公開授業「公正とは」川村実践
パネリスト 小嶋祐司郎・孫 美幸・橋崎 頼子
「ESDの実践と道徳性の育成について考える～なぜ道徳性に注目するのか～」
- ・2020年研究紀要「人間学としてのESD道徳の構想（1）－特別の教科道徳を創造的にどのようにデザインするのか－」竹村景生
- ・2020年竹村実践「現代版『竹取物語』を書く～放置竹林と里山景観保全活動～」
放置竹林の問題を景観や遊びのフィールドとしての体験を通じて、自分事として考え、現代版竹取物語を構想する取り組みである。

○2021年度

- ・2021年研究紀要「ESDの理念を含んだ特別な教科道徳の実践」若森達哉・中村基一
- ・2021年若森実践「障害理解学習」
TED「ステラヤング、私は皆さんの感動の対象ではありません、どうぞよろしく」の動画を教材にESDの視点である多様性・連携性・公平性・責任性から授業を見直した実践である。
- ・2021中村実践「村長の決断」
「村長の決断」という教科書の教材を用いて、ESDの視点から授業改善に取り組んだ。教材に出てくるカウラ島の自然環境保護の観点をESDの視点から深めた実践。

○2022年度

- ・2022年教科公開研修会道徳「身近な題材から考えるESD道徳」若森実践
- ・2022年研究紀要「道徳授業の開発と実践～求めるべき「自然観」について～」若森達哉

○2023年度

- ・2023年道徳「ダイバーシティ&インクルージョンから考える平等（Equality）と公正（Equity）。」有馬実践（本実践）